

第 5 回巴川遊水地第 4 工区浄化対策フォローアップ委員会（議事要旨）

年 月 日	平成 31 年 3 月 18 日（月） 時間 14:00～15:30
開催場所	静岡県静岡総合庁舎 7 階第 9 会議室
要 件	第 5 回巴川遊水地第 4 工区浄化対策フォローアップ委員会
参 加 者	<p>（委員） 京都大学_田中宏明教授、静岡県立大学_雨谷敬史教授、京都大学_田中周平准教授 （事務局） 静岡県交通基盤部 河川砂防局：太田局長 河川海岸整備課：中野課長、岡村班長、長谷川主任 河川企画課：八木課長代理 静岡土木事務所：濱田所長、村松次長 企画検査課：遠藤課長、町井班長、藤原主査 河川改良課：青山課長、山本班長、竹林主査 （行政） 静岡市：スポーツ振興課、環境保全課、廃棄物処理課、廃棄物対策課、緑地政策課、河川課 （受託者） 大日コンサルタント株式会社</p>
<p>1. 議題 (1) フォローアップ委員会の経緯及びモニタリング結果 (2) 環境基準値超過要因の検証 (3) 水質浄化対策 (4) 今後の予定</p> <p>2. 議事 会議は公開で行われた。 ・ 議題 (1) ～ (4) について、事務局より報告するとともに、委員による検討内容に対する討議・質疑応答が行われた。</p> <p>3. 議事の要点 ■モニタリング結果 ・ 毎年調査を実施しているが、データがまだ少ないと考えられる。第 4 工区内の水の放流先河川では、ただちに悪影響が出るような値は検出されていないため、問題ないと考えられる。 ・ 1 年毎の調査結果で判断せず、データを蓄積し傾向を把握していくことが望ましい。</p> <p>■環境基準超過要因の検証 ・ 内部生産等に関する調査については、朝と夜で SS の収支に変動があるため、1 日分のデータを収集する等の検討をしてみたらどうか。</p> <p>■水質浄化対策 ・ DXN 類の指標の設定は、長期的な水質状況や有機物の分布状況等のデータを蓄積していく中で検討していくとよい。 ・ 昨年度設置した竹炭の吸着性能を確認するにあたり、竹炭フィルターを撤去する際は、慎重に実施することが望ましい。 ・ これまでの植生復元箇所は、植生が無い箇所にヨシを移植しているため、効果発現には時間がかかる。 ・ 植生に期待する水質浄化効果、SS 等の沈降促進を確認するためには、既存植生付近（植生が繁茂している内部）にて水質を調査する等、戦略的に実施できるとよい。 ・ 植生復元に際しては、植生復元箇所、規模等、当該遊水地の将来像を検討した上で進めるとよい。なお、将来像の設定に際しては、治水機能、自然再生事業を両立させたものであることが求められ、地域とのコンセンサスが重要となる。</p> <p>4. 今後の予定 ■次年度の調査計画 ・ 浄化対策後のモニタリング調査について、マニュアルに基づき底質の調査頻度を減らすことは問題ない（巴川及び七曲川の底質調査を 3 年に 1 回とする）。 ・ 水質については、変更しない。</p> <p>■次年度の委員会開催について ・ 次年度委員会は、本委員会にて指導・助言頂いた内容への対応状況や、浄化対策の実施状況等の報告を目的に、H30 年度同様、1 回/年の頻度にて開催する。</p>	